

岡山県感染症週報 2016年 第4週 (1月25日～1月31日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2016年 第4週 (1/25～1/31) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第2週 4類感染症 レジオネラ症 1名 (70代 男)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (70代 男)
- 第3週 2類感染症 結核 3名 (40代 男 1名、60代 男 1名、80代 男 1名)
 5類感染症 急性脳炎 1名 (60代 男)
- 第4週 2類感染症 結核 2名 (80代 女)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O26:20代 男)
 5類感染症 播種性クリプトコックス症 1名 (80代 女)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 1307 名 (定点あたり 6.37 → 15.56 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
- 流行性耳下腺炎は、県全体で 95 名 (定点あたり 1.04 → 1.76 人) の報告があり、前週より増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 90 名 (定点あたり 1.17 → 1.67 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 437 名 (定点あたり 7.54 → 8.09 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第5週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 134 施設でありました。(2月1日～4日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 1307 名 (定点あたり 6.37 → 15.56 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、倉敷市 (11.38 → 26.50 人)、備中地域 (7.00 → 23.92 人)、岡山市 (6.59 → 16.32 人)、備前地域 (4.63 → 10.27 人) で、定点あたり報告数が多くなっており、これらの地域で前週より大きく増加しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)** は、県全体で 95 名 (定点あたり 1.04 → 1.76 人) の報告があり、前週より増加しました。昨年12月頃から報告の多い状態が続いています。地域別では、備北地域 (1.75 → 5.50 人)、岡山市 (2.21 → 3.07 人) で定点あたり報告数が増加し、「発生レベル2」になりました。
 この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
3. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎** は、県全体で 90 名 (定点あたり 1.17 → 1.67 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市 (2.64 人)、備前地域 (1.80 人)、岡山市 (1.57 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、ほとんどの地域で患者が増加しました。就学前から学童期の小児に多い感染症で、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしば嘔吐を伴います。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
4. **感染性胃腸炎** は、県全体で 437 名 (定点あたり 7.54 → 8.09 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★★★★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★★★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少
 : 1.1~2倍未満の減少
 : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加
 : 2倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

**中南米地域でジカウイルス感染症が流行しています。
妊娠中または妊娠を予定している方は、
流行国・地域への渡航は、可能な限り控えましょう。**

ジカウイルス感染症とは、ジカウイルスによる感染症で、主にヤブカ属のネッタイシマカやヒトスジシマカにより媒介されます。主な流行地は、アフリカ、中央・南アメリカ、アジア太平洋地域などで、2015年以降、ブラジルをはじめとする中南米で流行しています。

ジカウイルス感染症は、症状自体は軽度ですが、感染後にギラン・バレー症候群の発症や、流行地域で小頭症の新生児が増加しており、この感染症との関連性が疑われています。2月1日、WHOは、小頭症及び神経障害の集団発生に関する「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態（PHEIC）」を宣言しました。

流行国・地域へ渡航される方は、蚊に刺されないよう予防処置を取ってください。特に妊娠中または妊娠を予定している方は、流行国・地域への渡航は可能な限り控えるよう、十分注意してください。

➤ **渡航先で蚊に刺されないための対策**

- ・ 長袖・長ズボンを着用し、肌の露出は避けましょう。
- ・ 虫よけ剤（ディート含有）を使用しましょう。
使用する際は、必ず添付文書に記載されている使用方法を守ってください。子ども、特に乳児への使用については、小児科にご相談ください。
- ・ 設備が（網戸やエアコンなど）整っている、または、蚊をしっかりと駆除している宿泊施設を利用しましょう。
- ・ 室内では、電気蚊取り器、蚊取り線香、蚊帳などを使用しましょう。

➤ **帰国時・帰国後**

- ・ すべての蚊がジカウイルスを保有しているわけではないので、蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありませんが、心配な方や発熱等の症状のある方は、帰国された際に、検疫所にご相談ください。
- ・ 帰国後に心配なことがある場合は、最寄りの保健所等にご相談ください。

[ジカウイルス感染症に関するQ&Aについて（厚生労働省）](#)
[渡航時におけるジカ熱への注意について（厚生労働省検疫所）](#)

【医療機関の方へ】

渡航歴や臨床症状等から、ジカウイルス感染症の可能性が考えられる患者を診察した場合には、管轄の保健所への情報提供をお願いします。

インフルエンザ週報 2016年 第4週 (1月25日～1月31日)

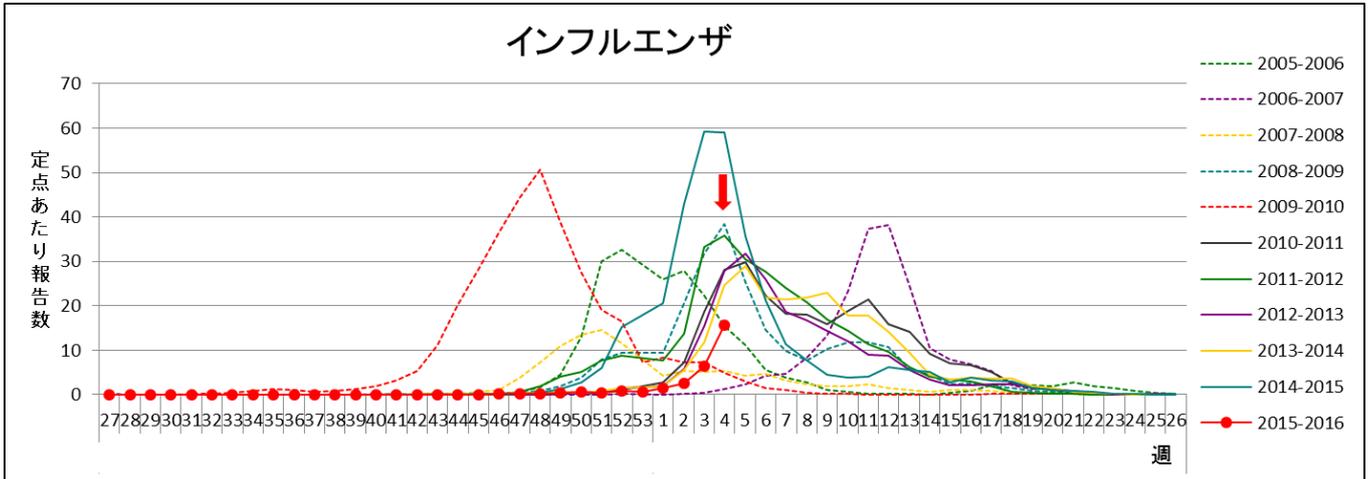
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で1307名(定点あたり15.56人)の報告がありました。(84 定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が73施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者2名の報告がありました。

【第5週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が134施設でありました。(2月1日～4日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で1307名(定点あたり6.37→15.56人)の報告があり、前週より大きく増加しました。岡山県は、1月14日に「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。

地域別では、倉敷市(11.38→26.50人)、備中地域(7.00→23.92人)、岡山市(6.59→16.32人)の順で、定点あたり報告数が多くなっており、県南を中心に患者が急増しています。

第4週、学校等の臨時休業の報告は、前週(16施設)より大きく増加し、73施設から報告がありました。また第5週(2/1～)速報でも多数報告されていることから、幼稚園・小中学校、高等学校などで集団生活をしている年齢層での感染拡大が懸念されます。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

1.地域別発生状況

前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1307	↑	備中	患者数	287	↑
	定点あたり	15.56			定点あたり	23.92	
岡山市	患者数	359	↑	備北	患者数	42	↑
	定点あたり	16.32			定点あたり	7.00	
倉敷市	患者数	424	↑	真庭	患者数	11	↑
	定点あたり	26.50			定点あたり	3.67	
備前	患者数	154	↑	美作	患者数	30	↑
	定点あたり	10.27			定点あたり	3.00	

【記号の説明】 前週からの推移 ↓: 2倍以上の減少 ↘: 1.1～2倍未満の減少 ➡: 1.1未満の増減
 ↗: 1.1～2倍未満の増加 ↑: 2倍以上の増加

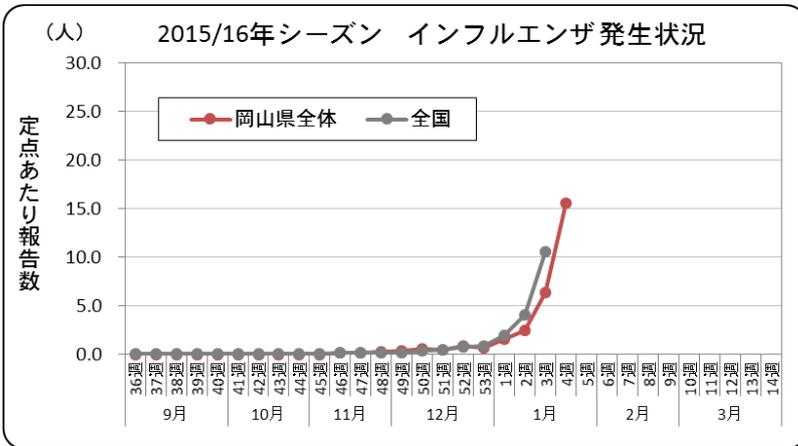
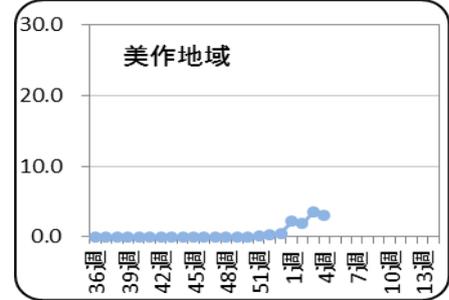
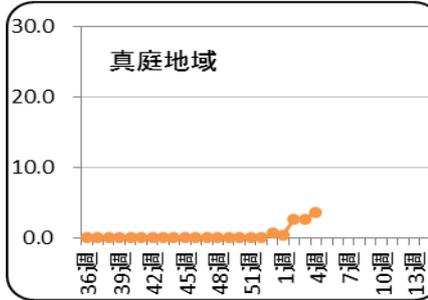
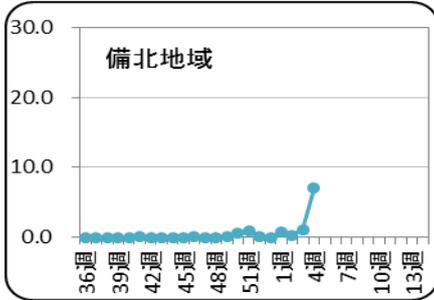
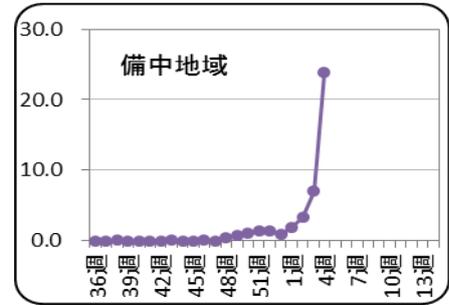
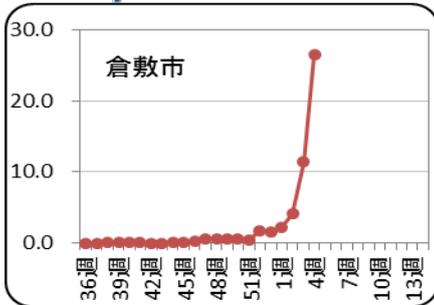
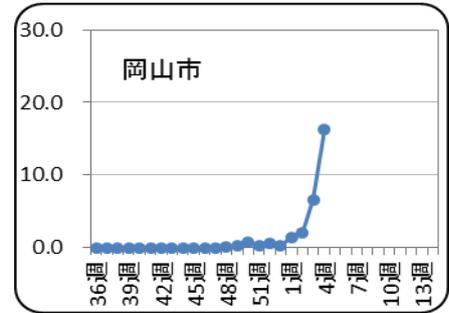
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0

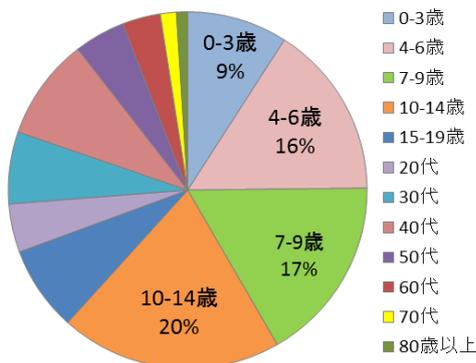


全国集計第3週（1/18～1/24）速報値によると、全国の定点あたり報告数は10.56人となり、前週（4.11人）より大きく増加しました。都道府県別では、新潟県（29.28人）、沖縄県（18.22人）、青森県（16.45人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、10-14歳 20%、7-9歳 17%、4-6歳 16%の順で高くなっています。週別の患者報告数をみると、第4週は小中学校で集団生活をしている年齢層で患者報告数が大きく増加しました。

岡山県 インフルエンザ年齢別累計割合 (2015年第36週～2016年第4週)



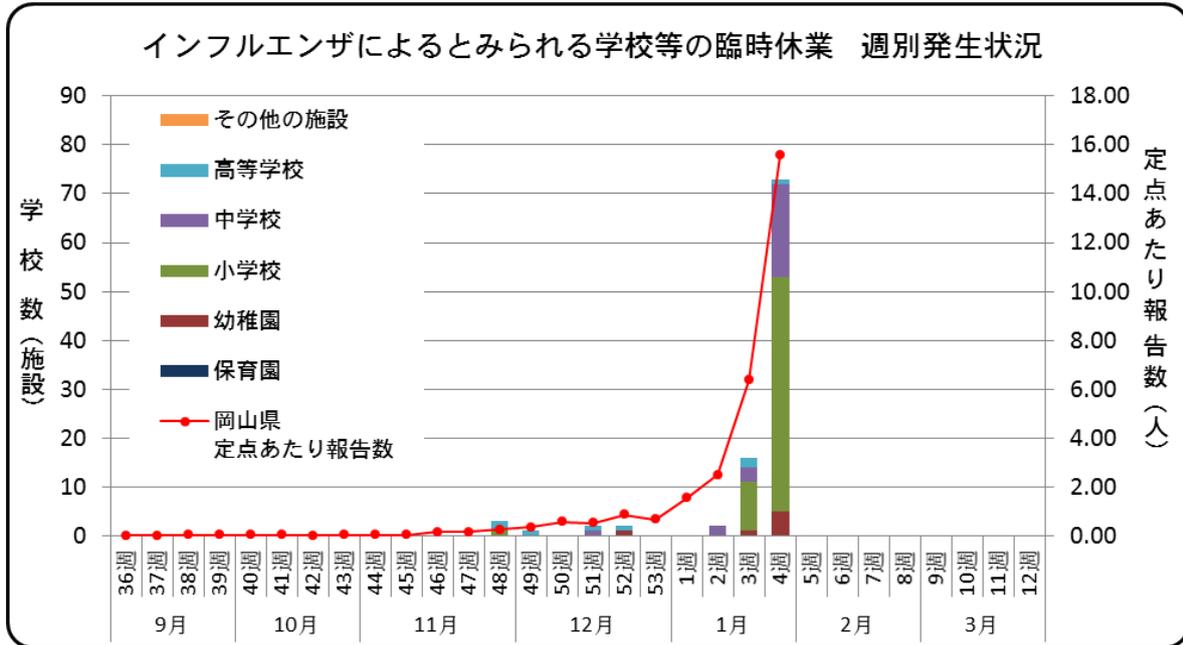
岡山県 インフルエンザ年齢層別患者報告数



3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 73 施設でありました。

【第 4 週 臨時休業施設数】 ▽岡山市 28 ▽倉敷市 28 ▽浅口市 7 ▽総社市 5 ▽里庄町 2
▽津山市 1 ▽笠岡市 1 ▽和気町 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	1309	1707	953	1270	73	99	—	—	9	14	64	85	H27.11.24
岡山市	553	787	409	589	28	40	—	—	5	6	23	34	H27.11.24
倉敷市	425	488	319	371	28	33	—	—	0	1	28	32	H27.12.15
備前地域	15	39	15	37	1	3	—	—	1	2	0	1	H27.11.24
備中地域	306	383	202	265	15	22	—	—	3	5	12	17	H27.11.24
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	10	10	8	8	1	1	—	—	—	—	1	1	H28.1.25

2) 臨時休業施設数の内訳

第 4 週：73 施設

累計：99 施設

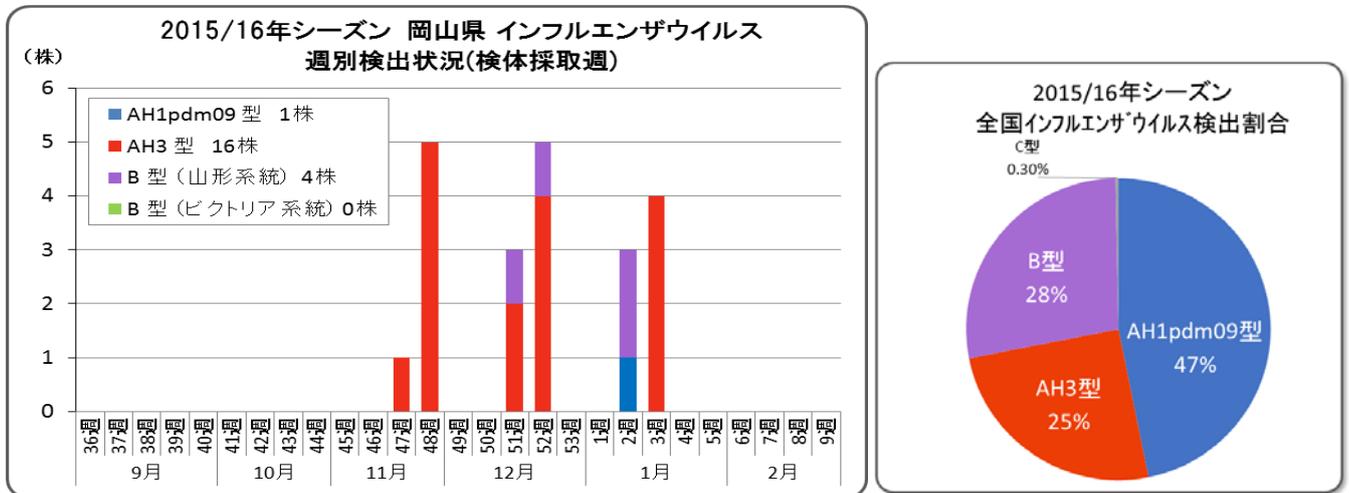
	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	5	7	48	59	19	25	1	8	—	—

4. インフルエンザウイルス検出状況

第4週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 16株（76%）、B型（山形系統）4株（19%）、AH1pdm09型 1株（6%）となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 310株（47%）、B型 184株（28%）、AH3型 166株（25%）となっています。（2016年1月29日現在）

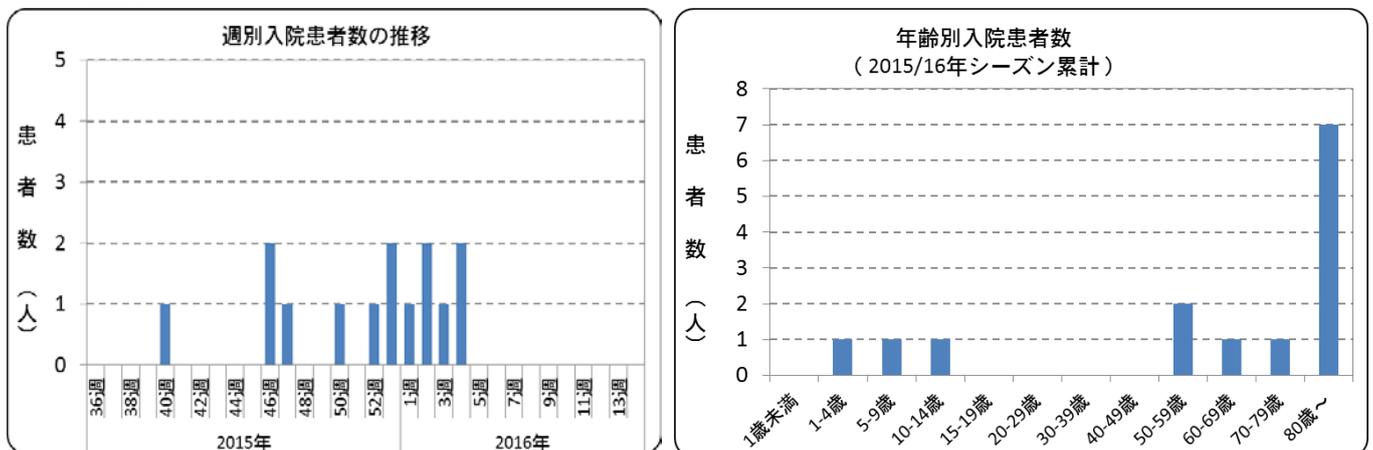
[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)



5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2名（80歳以上）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第4週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数												2	2
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)												1	1
頭部MRI検査(予定含)												1	1
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず												1	1

*重複あり

【2015年8月31日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1	1					2	1	1	7	14
ICU入室			1						1				2
人工呼吸器の利用			1						1		1		3
頭部CT検査(予定含)		1										1	2
頭部MRI検査(予定含)				1								1	2
脳波検査(予定含)			1										1
いずれにも該当せず										1		6	7

*重複あり

◆インフルエンザは流行期に入っています。
感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

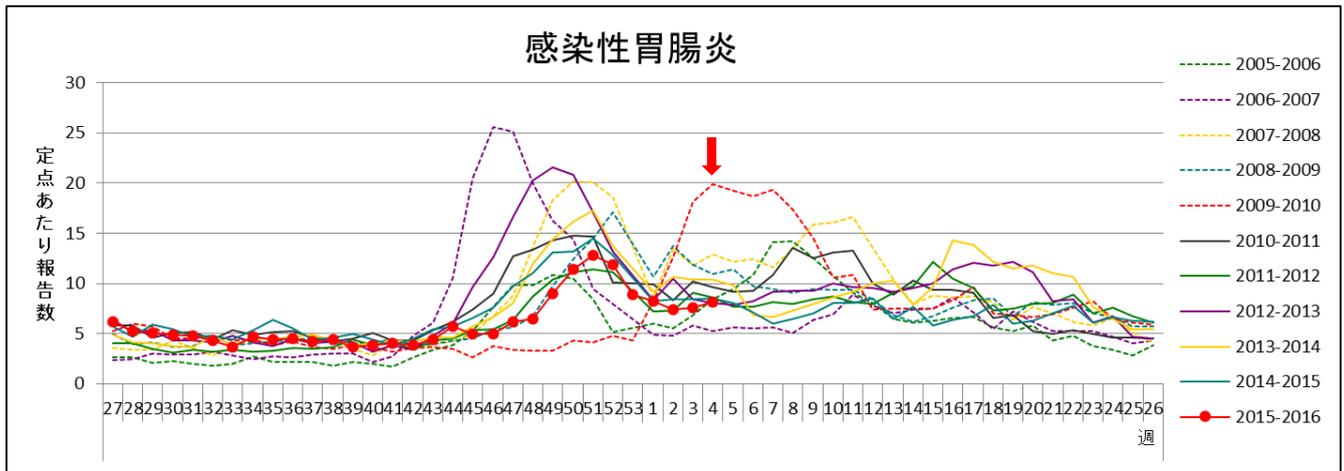
- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな?という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

感染性胃腸炎週報 2016年 第4週 (1月25日 ~ 1月31日)

- 感染性胃腸炎は、県全体で437名（定点あたり7.54 → 8.09人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。
- 感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が1施設でありました。（1月25日）



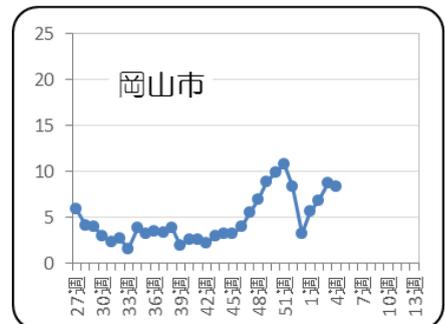
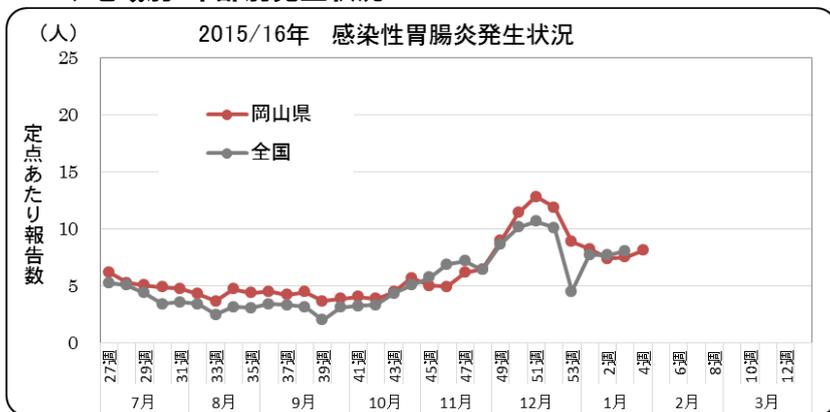
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で437名（定点あたり7.54 → 8.09人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。県全体の報告数は12月に比べて減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。地域別では、備北地域（9.50人）、備前地域（8.60人）、岡山市（8.36人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

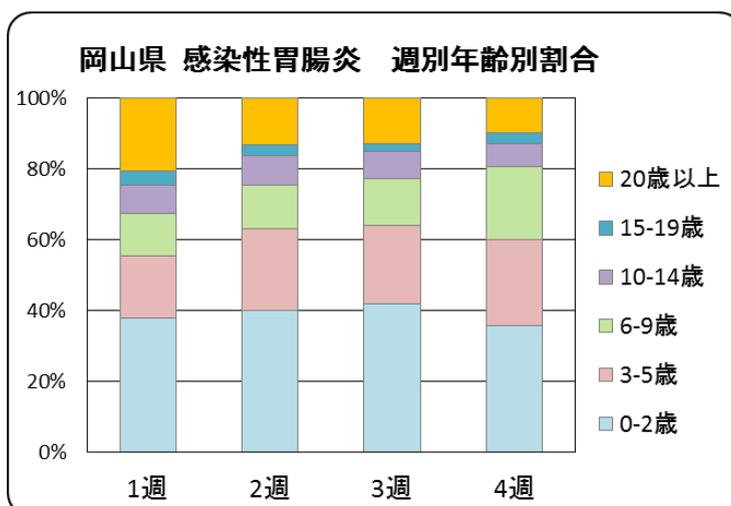
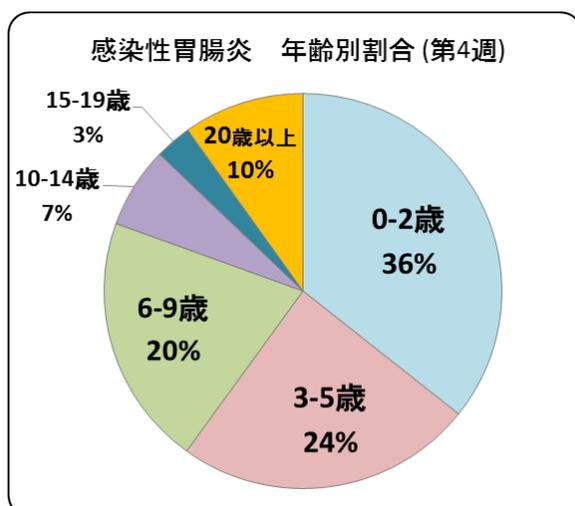
瀬戸内市の幼稚園では、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆地域別・年齢別発生状況



年齢別割合では、0-2歳が36%と最も高く、次いで3-5歳 24%、6-9歳 20%の順となっています。年明け以降、10歳未満の年齢層が占める割合が徐々に増加しており、第4週は特に6-9歳の割合が増加しました。



◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数（定点把握）2016年4週（2016/01/25～2016/01/31）

2016年2月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1307	15.56	359	16.32	424	26.50	154	10.27	287	23.92	42	7.00	11	3.67	30	3.00
RSウイルス感染症	16	0.30	7	0.50	5	0.45	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	16	0.30	7	0.50	1	0.09	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	1.67	22	1.57	29	2.64	18	1.80	9	1.29	2	0.50	3	1.50	7	1.17
感染性胃腸炎	437	8.09	117	8.36	91	8.27	86	8.60	52	7.43	38	9.50	10	5.00	43	7.17
水痘	18	0.33	15	1.07	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	30	0.56	14	1.00	4	0.36	5	0.50	2	0.29	-	-	-	-	5	0.83
突発性発疹	11	0.20	6	0.43	4	0.36	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	95	1.76	43	3.07	9	0.82	11	1.10	2	0.29	22	5.50	2	1.00	6	1.00
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2016年4週（2016/01/25～2016/01/31）

2016年2月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1307	15.56	359	16.32	424	26.50	154	10.27	287	23.92	42	7.00	11	3.67	30	3.00
咽頭結膜熱	16	0.30	7	0.50	1	0.09	1	0.10	1	0.14	1	0.25	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	1.67	22	1.57	29	2.64	18	1.80	9	1.29	2	0.50	3	1.50	7	1.17
感染性胃腸炎	437	8.09	117	8.36	91	8.27	86	8.60	52	7.43	38	9.50	10	5.00	43	7.17
水痘	18	0.33	15	1.07	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	30	0.56	14	1.00	4	0.36	5	0.50	2	0.29	-	-	-	-	5	0.83
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	95	1.76	43	3.07	9	0.82	11	1.10	2	0.29	22	5.50	2	1.00	6	1.00
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第4週 2016/01/25～2016/01/31)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1307	2	7	29	22	44	67	50	80	101	84	97	297	88	39	72	116	58	42	9	3

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	16	4	5	4	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	16	-	2	3	2	3	2	1	1	-	-	1	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	-	-	2	11	10	11	8	11	14	2	4	10	2	5
感染性胃腸炎	437	3	25	76	52	31	36	39	28	19	23	20	29	13	43
水痘	18	-	1	1	2	2	3	4	1	1	2	-	1	-	
手足口病	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
伝染性紅斑	30	-	1	1	2	4	2	4	6	5	2	1	2	-	
突発性発疹	11	1	2	5	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	95	-	-	9	6	7	11	8	13	7	6	7	11	2	8

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	1	2

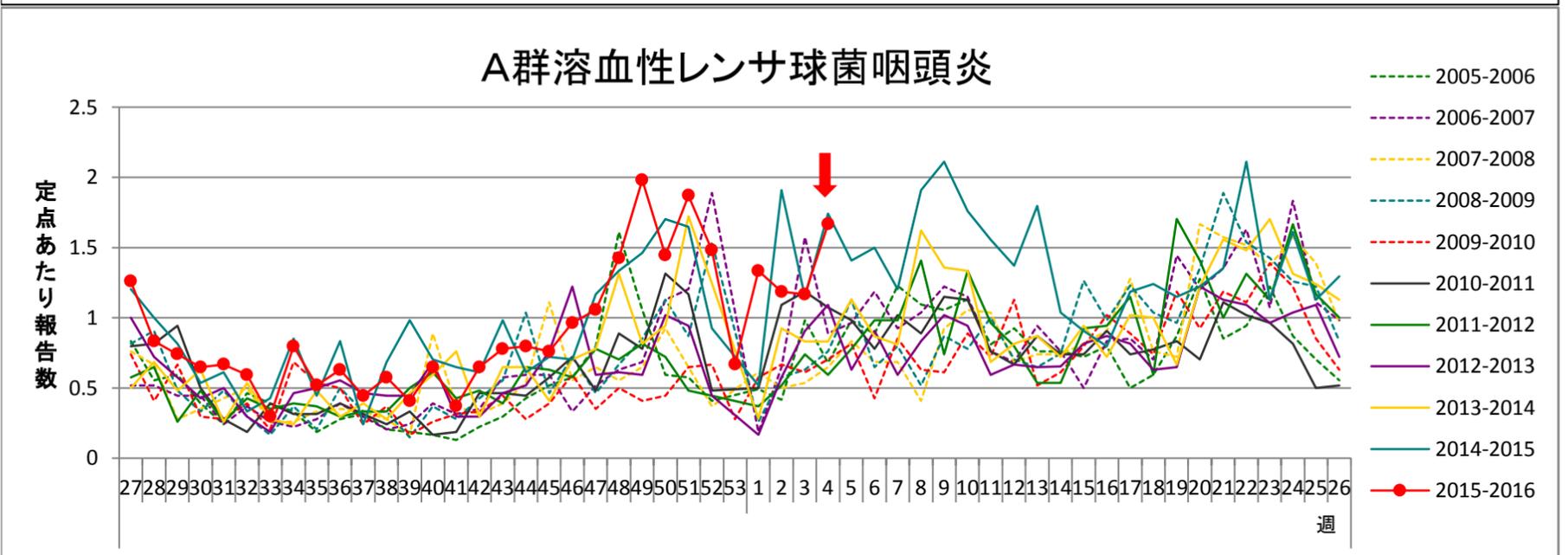
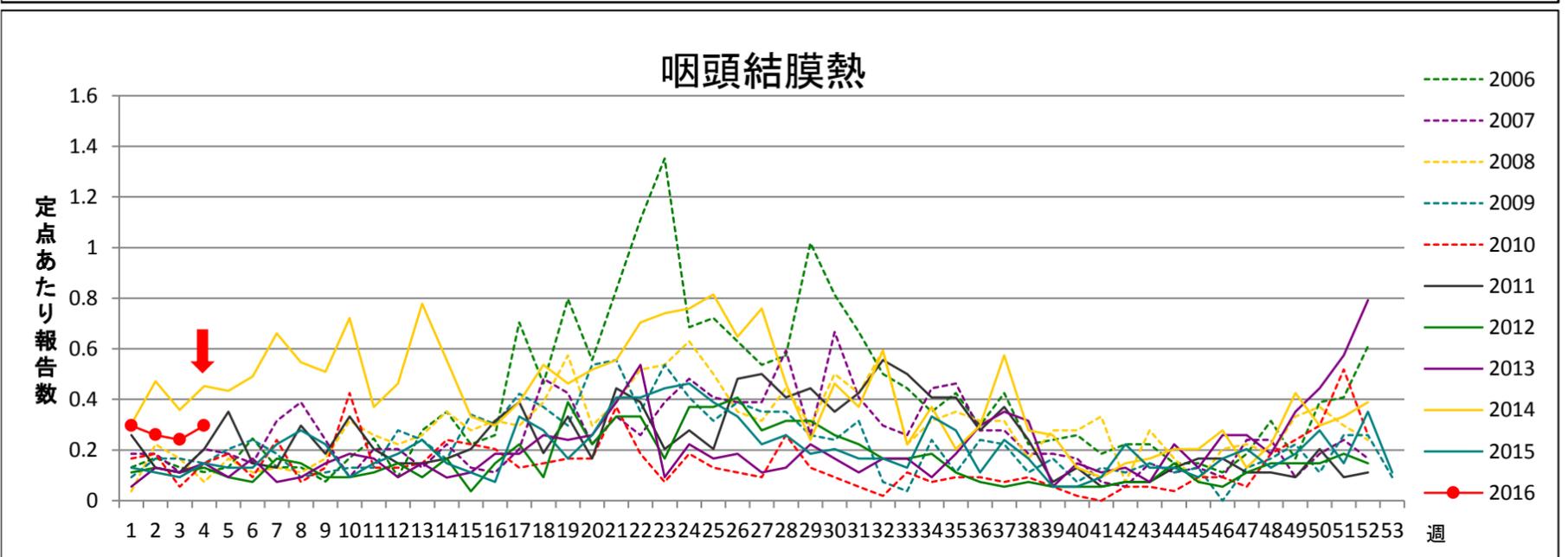
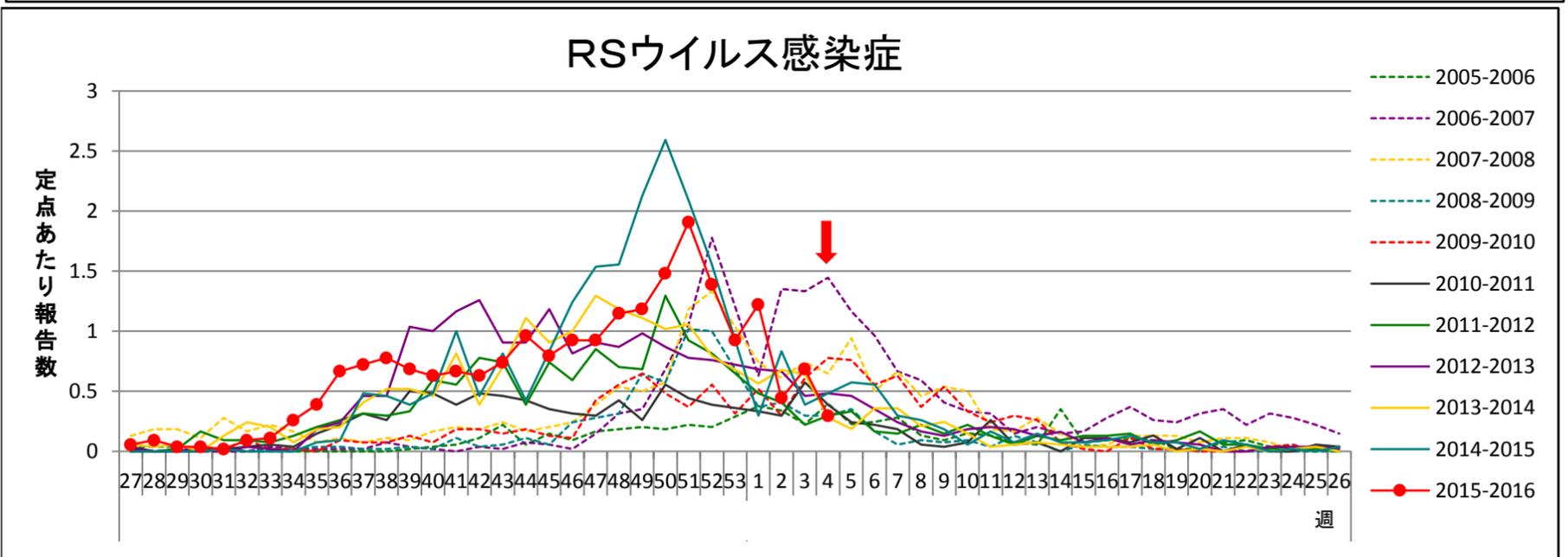
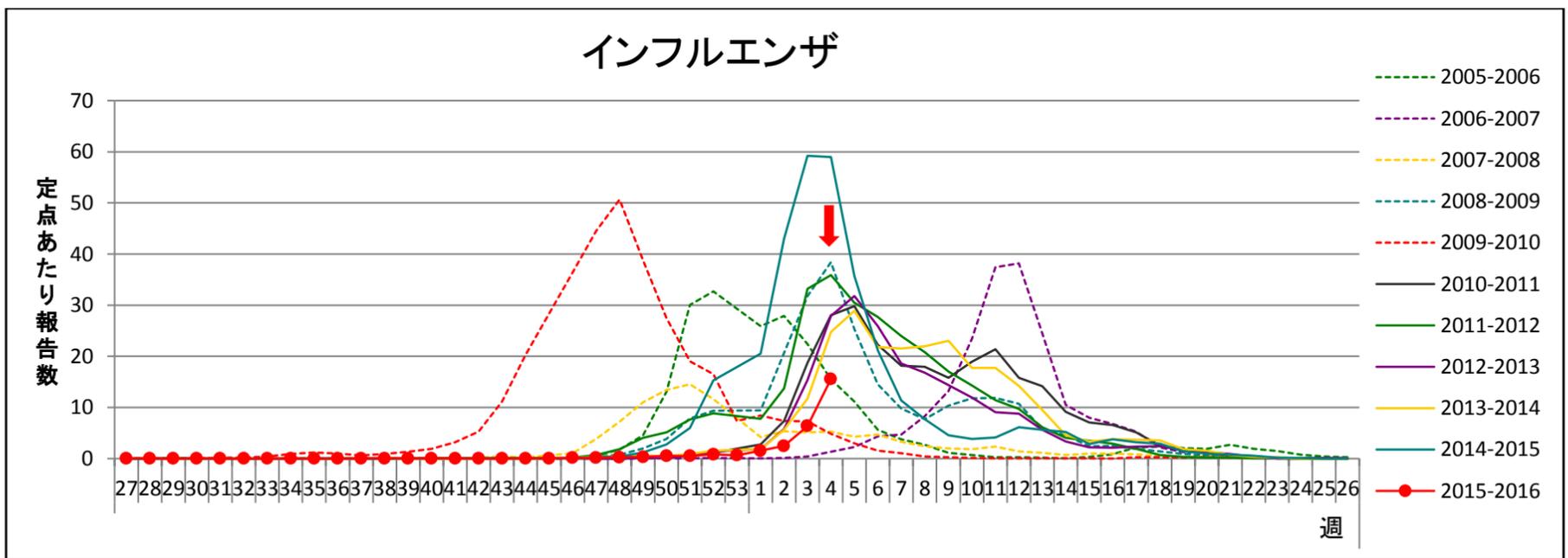
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

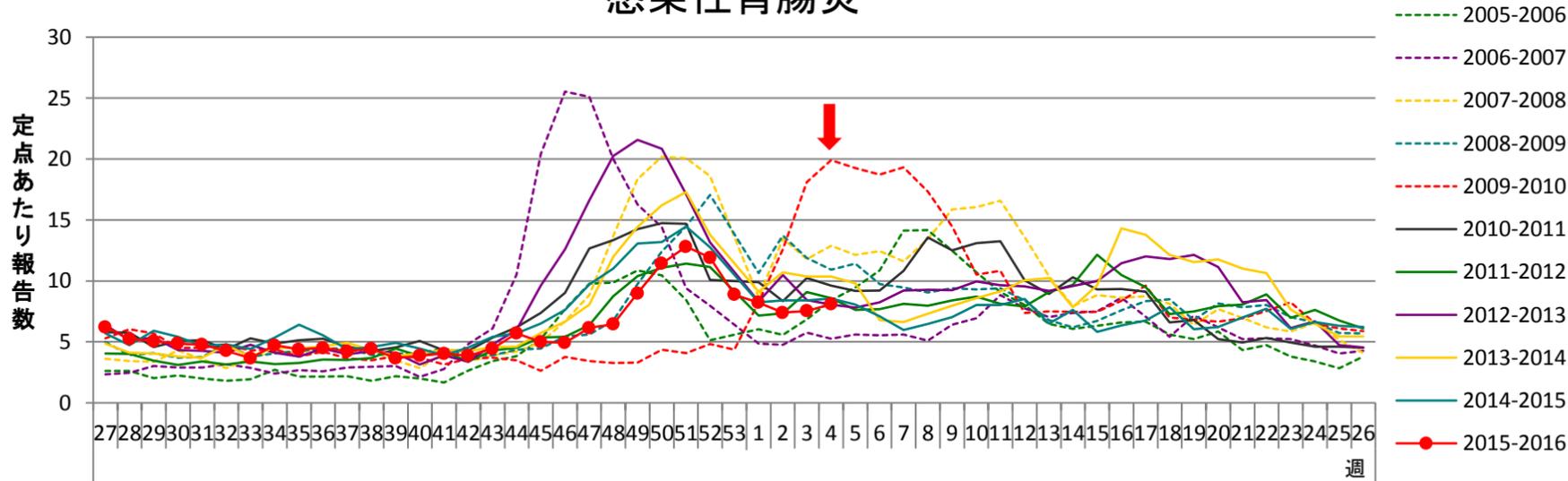
全数把握 感染症患者発生状況

2016年 4週

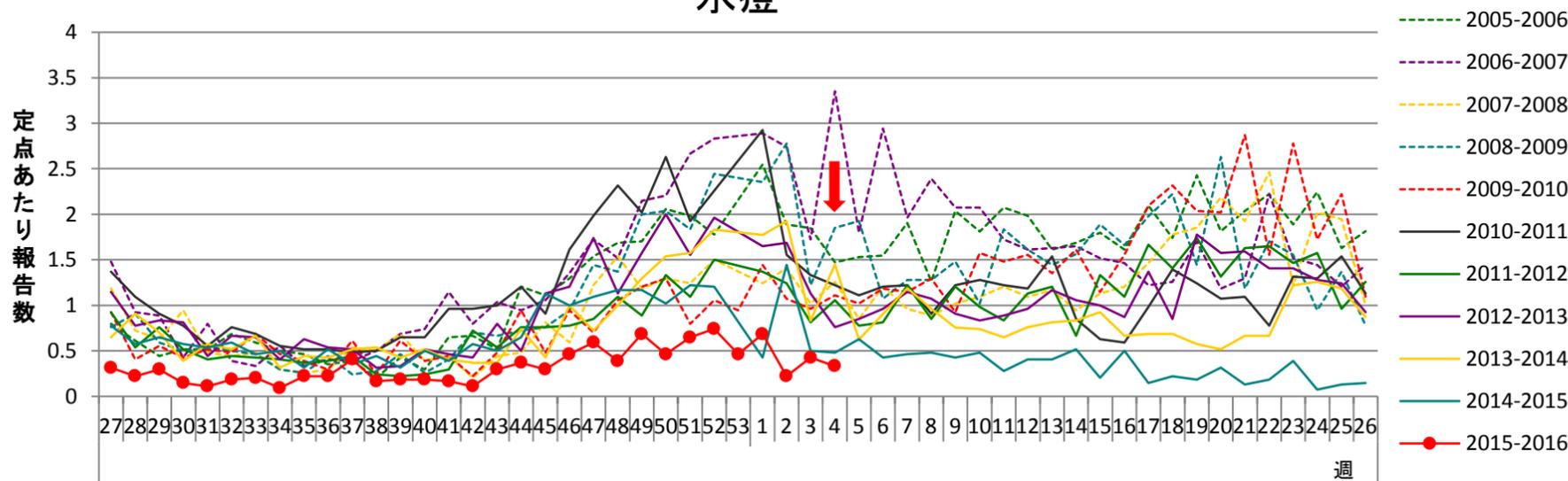
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	18	369	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	3	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	9
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	1	デング熱	-	-	2
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2	野兎病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	4	28	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	-	17	ウイルス性肝炎*3	-	-	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	-
急性脳炎*4		-	2	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	2	後天性免疫不全症候群	-	-	21	ジアルジア症	-	-	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	2	35
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	1	24
播種性クリプトコックス症		1	1	1	破傷風	-	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	-	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



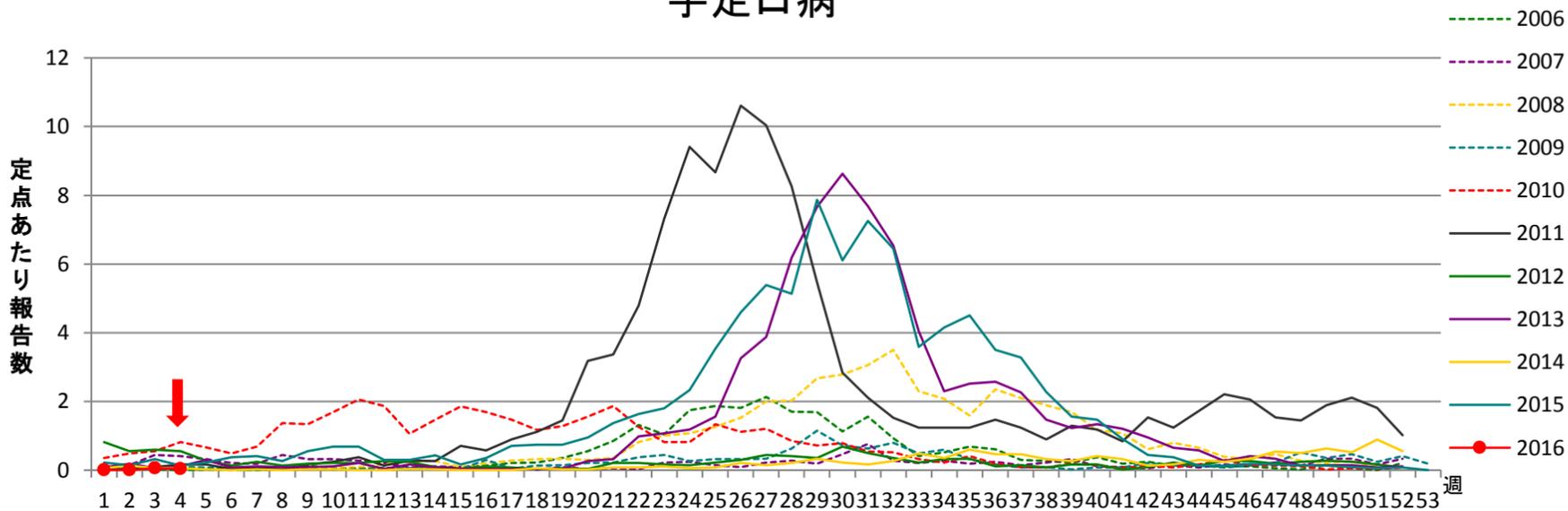
感染性胃腸炎



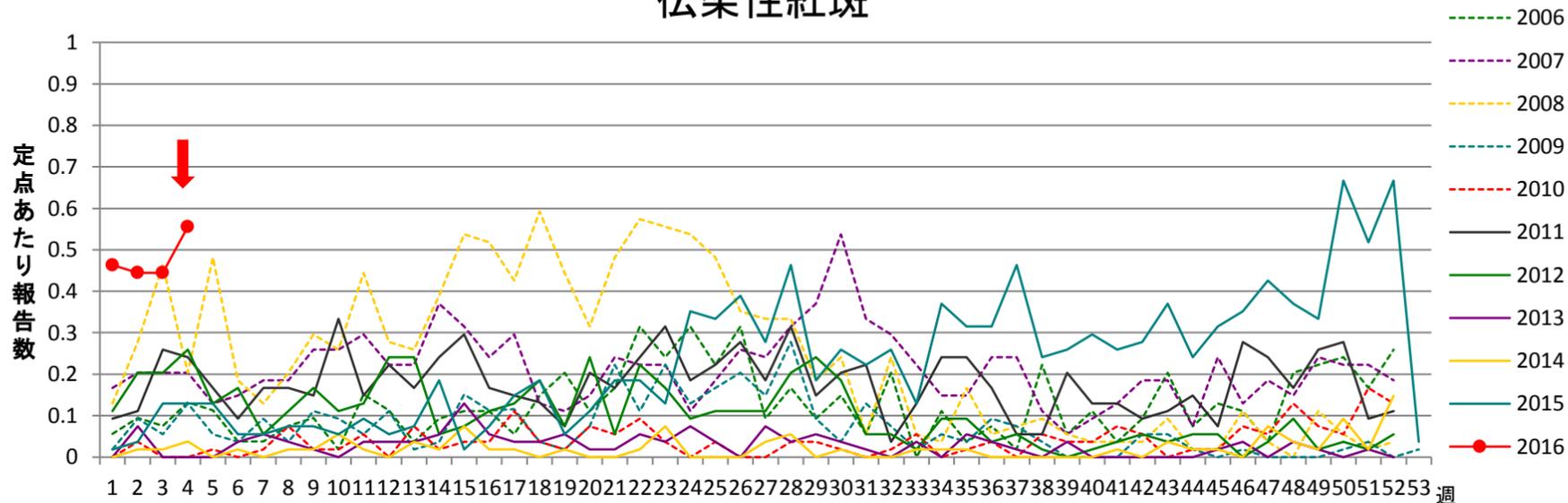
水痘



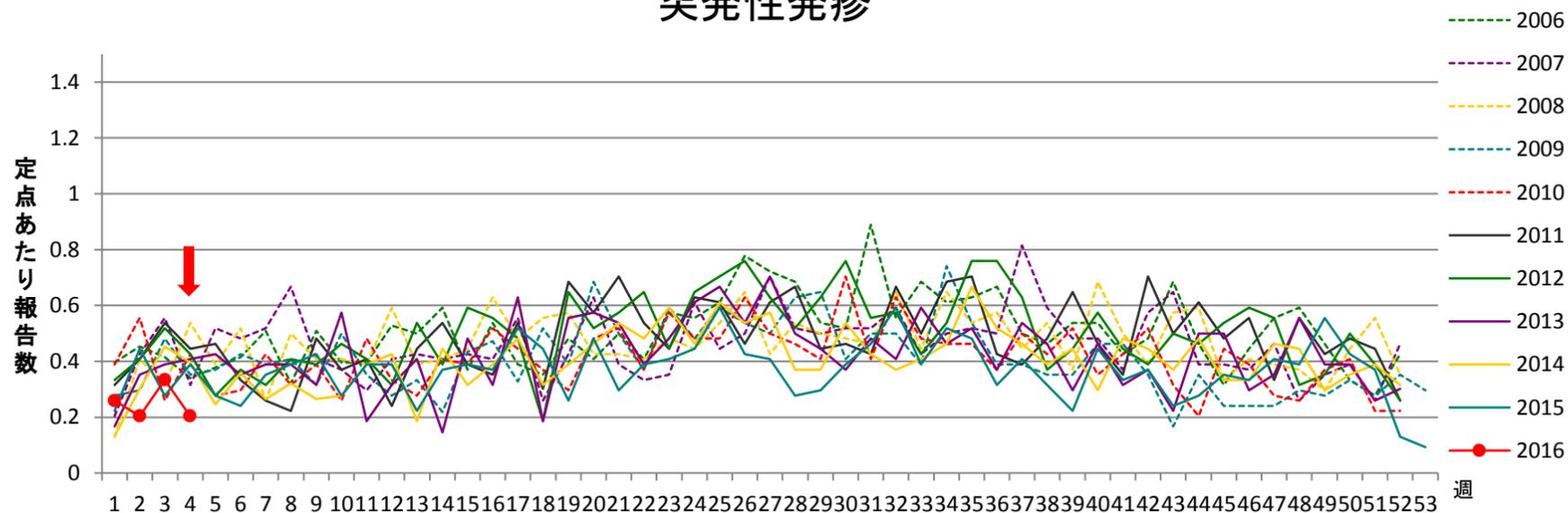
手足口病



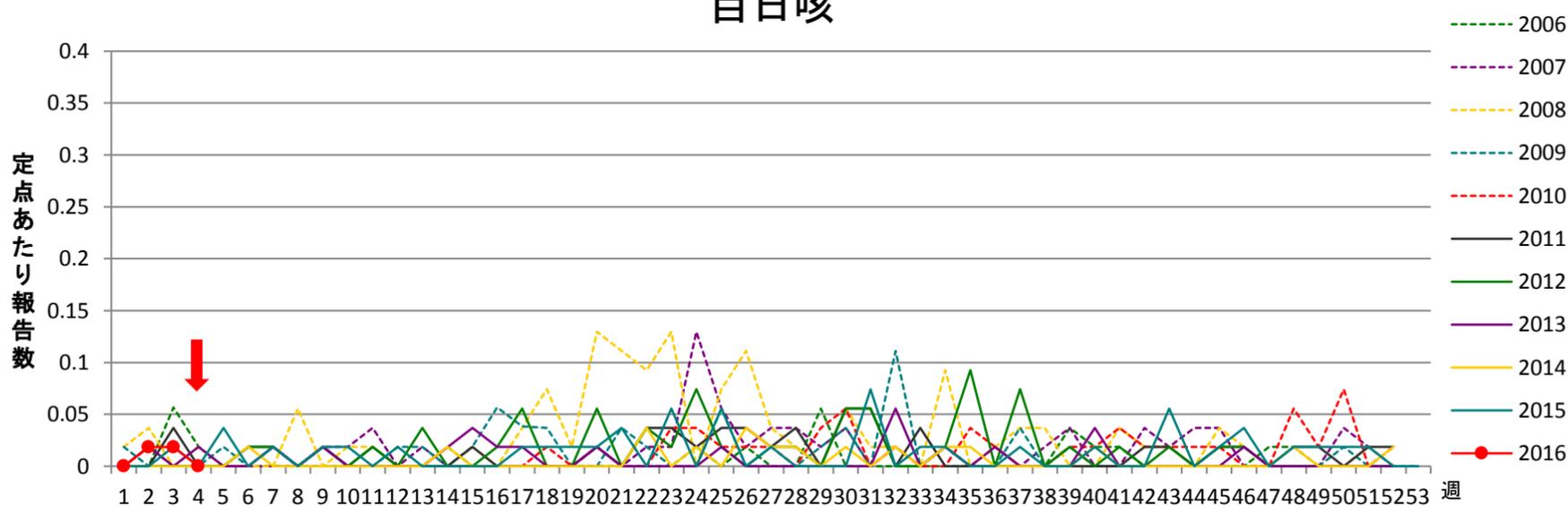
伝染性紅斑



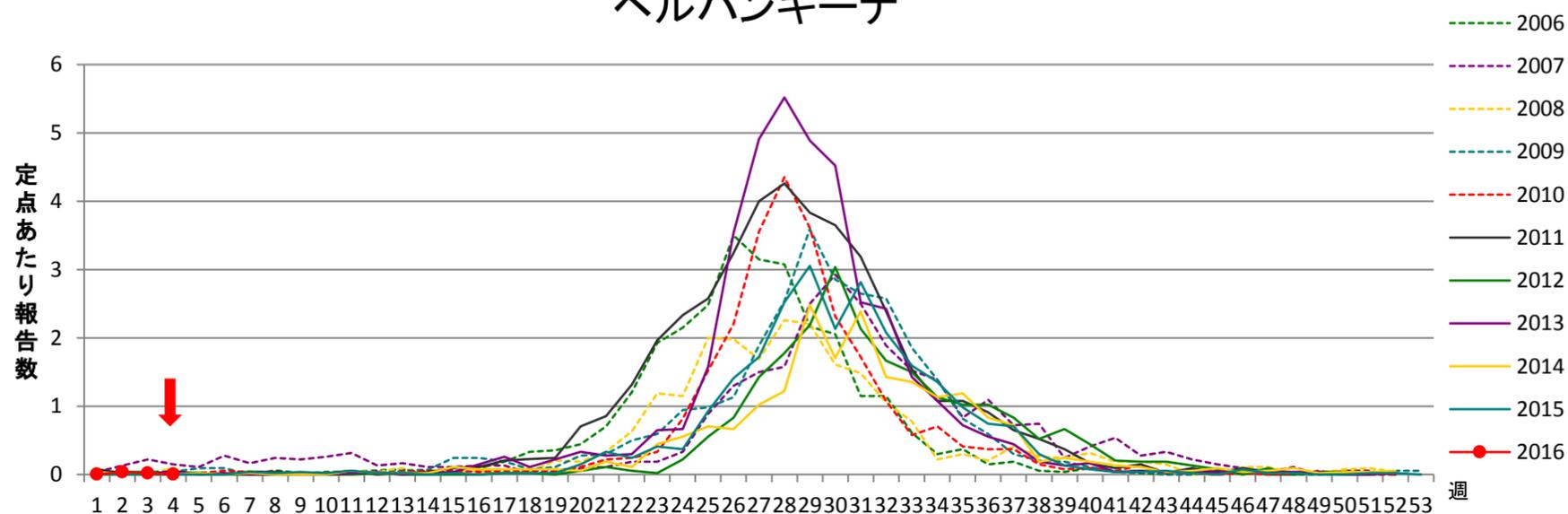
突発性発疹



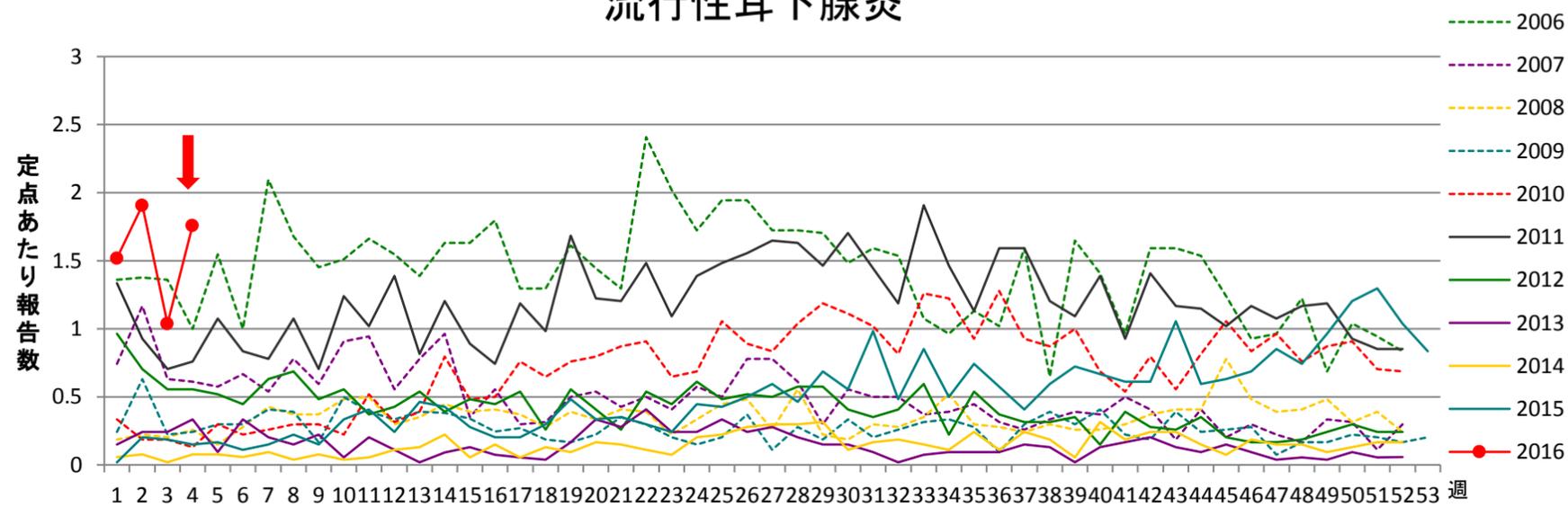
百日咳



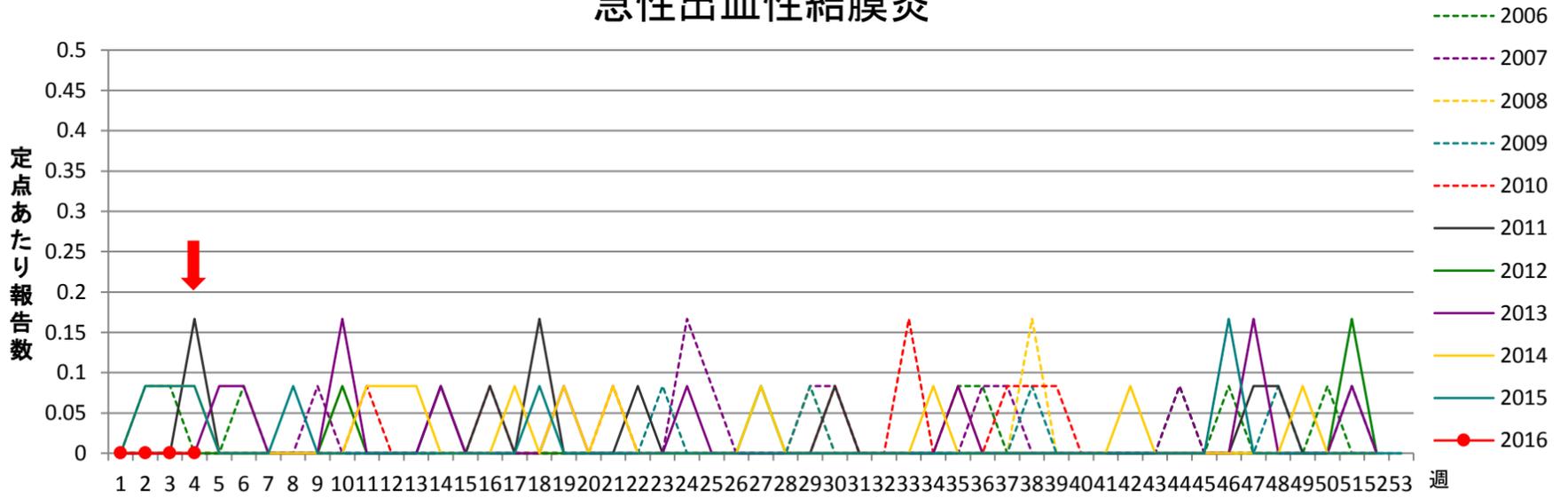
ヘルパンギーナ



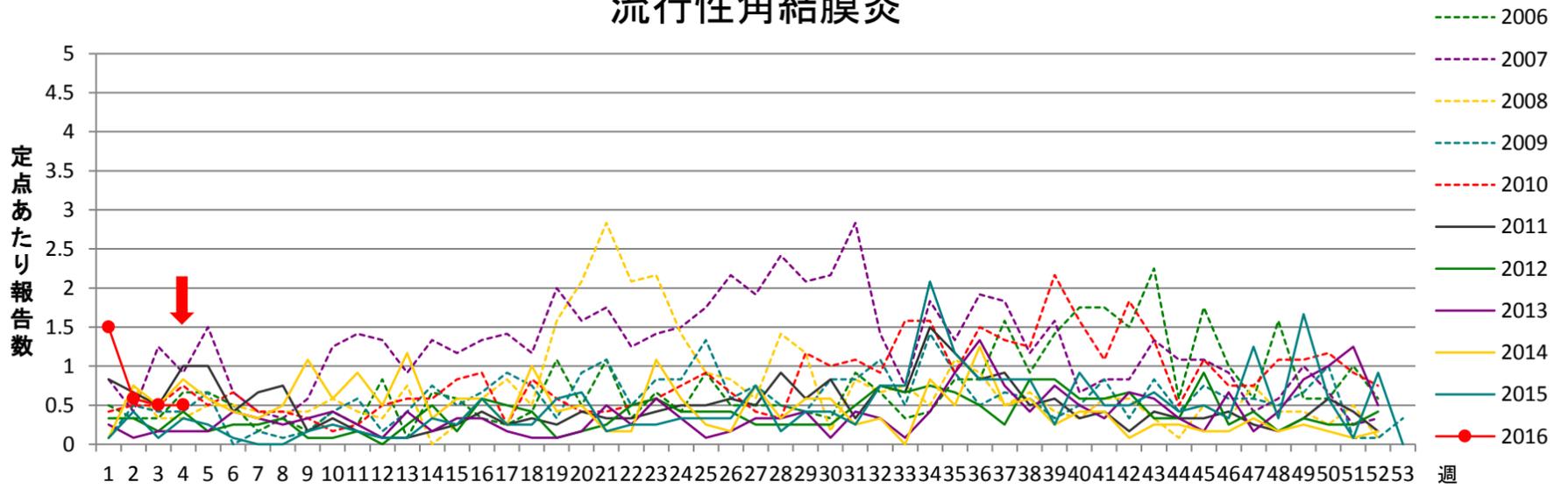
流行性耳下腺炎



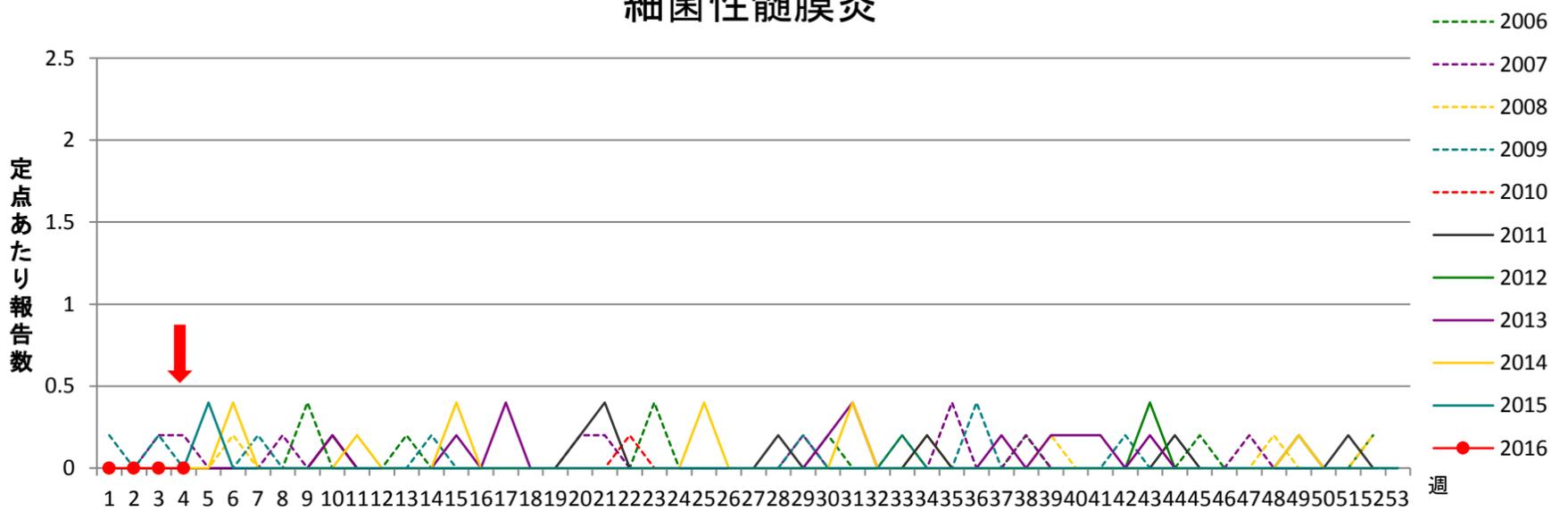
急性出血性結膜炎



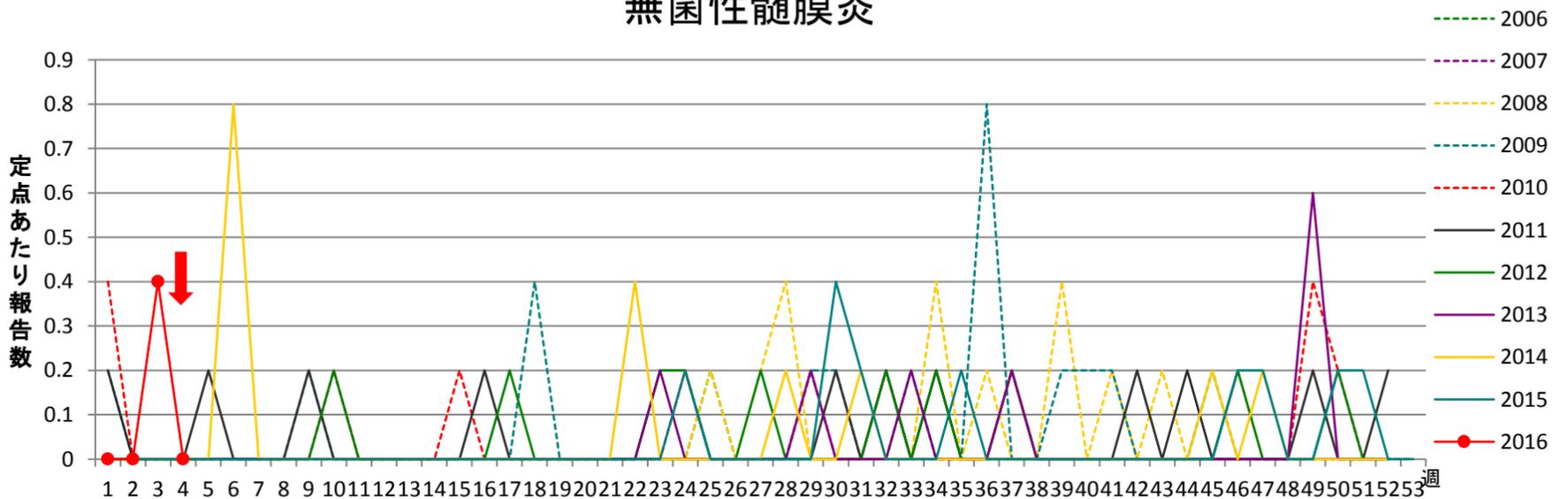
流行性角結膜炎



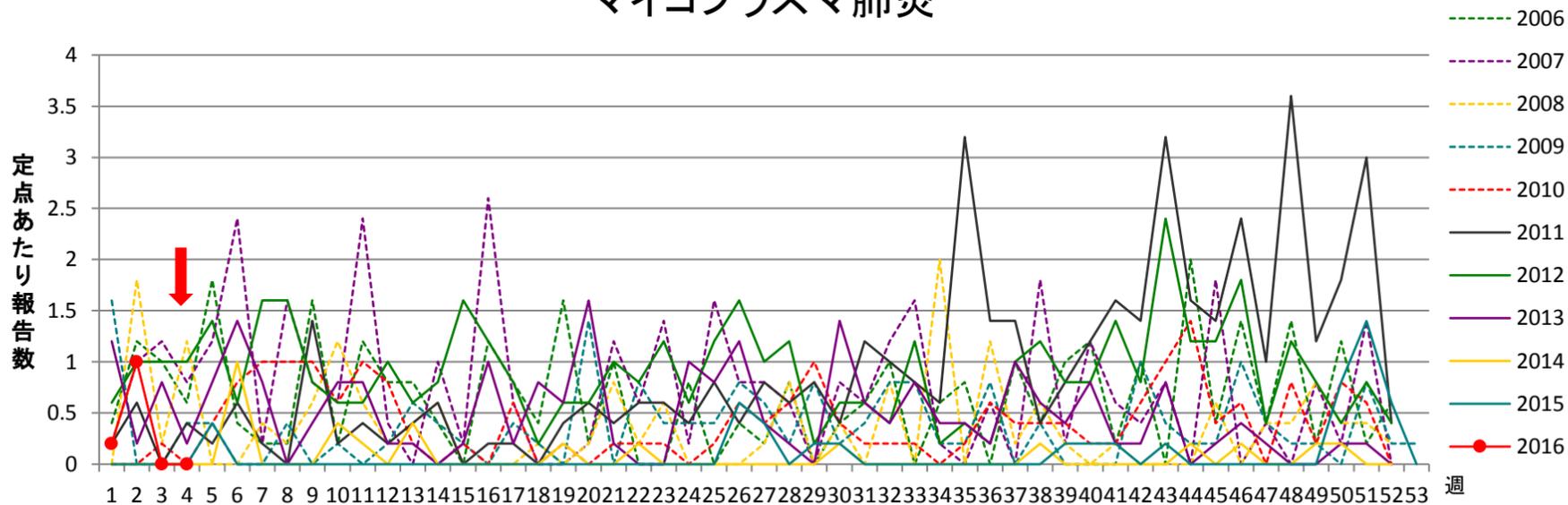
細菌性髄膜炎



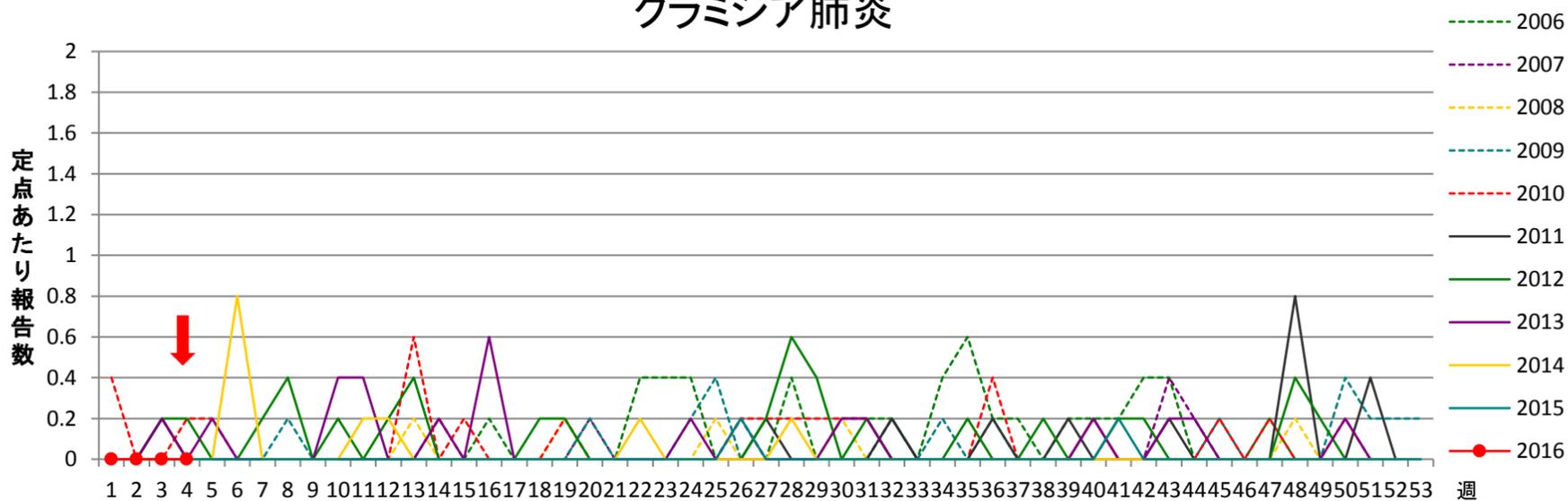
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

